

双葉郡 児童作文 コンクール 入賞作品を紹介します

問 浪江小学校 TEL 024(567)3970
問 津島小学校 TEL 024(567)6860

今年の浪江小学校・津島小学校は、「なみえを愛し 未来に向かって えがおで生きる子ども」を教育目標に学校を運営しています。児童数は21名で、二本松市を中心に、福島市、本宮市、郡山市の仮設住宅や借上げ住宅から全員元気にスクールバスで通学しています。

今年度のふるさとなみえ科（総合的な学習の時間）では、「浪江の方とつながろう」をテーマに、仮設住宅を訪問し、浪江町の方との歌やゲームの交流やインタビューを通して、浪江町への思いや現在の様子等を聞き、新聞にまとめる学習を進めています。

また、浪江町の自然や伝統文化、名所等をもとに、数え唄をつくったり、双葉せんだん太鼓を練習して先日の浪江町十日市祭で発表し、観客の方から大きな拍手をいただきました。

これからも、この学習を通して浪江町の皆さんの希望の花、笑顔の花をいっぱい咲かせたいと考えています。

*今回は、4～6年生の入賞作品をご紹介します。子どもたちの体験や夢をお読みください。なお、12月号の3年生の作文は、福島県作文コンクールで特選に輝きました。

お父さんの焼きそば

四年 瀧 リリカ

「うまい。最高の味だ。」
「おかわりしていいですか。」
わくわく広場で、なみえ焼きそばを食べるみんなは、とてもうれしそう。おはしを休めることもなく、むちゅうで食べています。

十月一日は、「浪江焼きそば」の由来や目的についてお話ししていただく「浪江焼そば授業」そして、「B1グランプリin郡山」でなみえ焼きそばたいそうをおどつておうえんする私達の目の前で、大きな鉄板でなみえ焼きそばを作っているのは、私のお父さん。

浪江焼そばのメンバーとおそろいの服を着て、実えん会が始まりました。初めに、熱くなった鉄板に油をひき、ぶたバラ肉をいれます。色がついたら、次はもやしを入れます。もやしはしゃきしゃきの歯ごたえを残していただきます。その後は、いよいよ太めん。

「うわあ。早く食べたいな。」
最後は、特せいソースをたっぷりかけて、でき上がり。ひでんのソースです。「いいにおい。」
みんなが手でおいを自分のはなのところまで何度も運んで、できあがり

楽しみにしています。

私のお父さんは、浪江町で飲食店を開いていました。おいしい料理を作るお父さんは、私のじまんでした。三年前のある日、ひなん先でも浪江の味を思い出してほしいと、かせつ住たくに住んでいる人達に「なみえ焼きそば」をふるまうことになりました。

ひさしぶりに茶色のエプロンすがたでヘラを持ったお父さんを見て、私はうれしかったです。とてもかっこよく見えました。家に帰ると、「なつかしい。」と言う人や「ほっとする。」と言う人。「初めて食べた。」と言う人。どの人もとても笑顔でよろこんでくれたよ。みんなが、「ありがと。」とお父さんに言ってくれた。」と話してくれました。

「お父さん一人ががんばっても何にもならないかもしれないけれど、なみえ焼きそばを通して、たくさんの人達が笑顔になってくれたり、ばらばらになった人達のさい会の場になったりしてくれるなら、お父さんはがんばってみようかな。」

それからお父さんは、どんなに遠くてもよろこんでくれるなら、岡山などいろいろな所へ行きました。見ていたら、私も手伝いたくなって、お父さんにたのんでみました。「いいよ。」
「なんだかお父さんうれしそうでした。」

「やったあ。」

さっそくエプロンをかけて手伝いました。でも、パックに入った焼きそばを運ぶうちに（めんが重くて大変だなあ。）と感じました。お父さんは、何百人分の焼きそばを一人で作っていて大変なのに、ずっと笑顔のままでした。それは、長い列にいらんで買いに来るたくさんの方が、

「みんな、がんばってね。」
「町を思い出すよ。」
「ぜったいに、浪江に帰ろうね。」
と言いながら、何度もお父さんと、力強くあく手をしていながらだと思えます。お父さんをほげます声がいっぱいもつづいていました。

私は、お父さんの焼きそばは、人の心の中にずっとふるさとの町を残すことができ、これから先も町を残そうとみんなが思えるようになる、きらきら光る太陽のようなそんなさいなのだと思います。

「町にもどる人は少ないかもしれないけど、ちがう土地にいても、私達が心の中に町を残しておけばだいじょうぶだ。」

とお父さんは言っています。お父さんやお母さん、そして、私が生まれ育った町は、ずっとあの場所にあるのです。私が大人になって、もし、町に帰ることができたなら、お父さんと、焼きそば屋さんになりたいです。それが私とお父さんのゆめです。

伝統を守る

五年 久米田滉斗

「うわあ。ぐちゃぐちゃだあ。」

二〇一四年九月八日、今日は楽しみにしていた「大堀相馬焼体験」の日です。初めてろくろを使って茶わんを作ることもあり、うまくできるか不安な気持ちもありましたが、はやく完成させたいという気持ちの方が強く、わくわくしていました。

最初に工房の方が作り方を説明し、実際にろくろを使った作り方を見せてくれました。ぼくはそれを見て、「なんだ、簡単じゃん。」

「うわあ。ぬるぬるする。」
「うわあ。ぬるぬるする。」
思ったよりぬん土がやわらかく、手に力を入れると、みるみる形がかわっていきます。

「簡単、簡単。」
うまく縦に伸ばすことができ、第一

段階は終わりよう。次は、上から親指を押し込んでへこませる段階です。

「よおーし。」

親指に力を入れゆつくりと押し込んでいきます。（へこんできたぞ、その調子。）そう思ったしゅん間、

「うわあ。ぐちゃぐちゃだあ。」

あつという間に形がぐちゃぐちゃぐちゃになってしまいました。ろくろで初めて大堀相馬焼作りを体験したのは今から三年前の二年生の時でした。あの時は、茶わんではなく、お皿を作りました。一回で上手にできました。三年生の時は湯飲み茶わんにちよう戦しました。お皿はほとんど同じ形をしているけど、湯飲み茶わんはいろいろな形があるので、どんな形にするかなやみましました。お店で売っている形はどうだろうと思いつき、作ってみるとすごく

難しく、完成させるのに苦労した記憶が残っています。四年生になると、二年生の時の経験を生かし、少し大きめのお皿づくりにちよう戦しました。手が勝手に動き、すらすら作ることができました。

このように、大堀相馬焼作り体験は今年で四年目。湯飲み茶わん作りは苦労した記憶はあっても、ろくろを使えば茶わんは簡単にできるだ

ろうと思っていたのです。でも実際はそうではありませんでした。ぬらす水の量やちよとした力や入れ具合で形が大きく変わったり、時にはくずれてしまったりするのです。工房で働く方々はあつという間に形を整え、簡単に作り上げてしまいきます。さすがです。でも、工房で働く方々も昔はぼくのように苦労していたのだと思います。毎日毎日作り続けることで今のような立派な職人さんになったんだと思います。

今回、ぼくは茶わんを作っている時（かっこいい茶わんができたらいいなあ。）と思いながら作業をしていました。その他にも、（うまくできたらいろいろな人にも見てもらいたいなあ。）とも思っていました。なんとなく工房で働く方々の気持ちもわかった気がしました。たぶん、ぼくの気持ちと似ている。

「上手に作ってたくさんの人に見てほしい。」
「たくさんの人に作ってほしい。」
という気持ちで作っているのかなと思えました。

大堀相馬焼の作品を見ると、工房で働く方々の気持ちが伝わってきました。そして、大堀相馬焼の三つの特ちょうを知ることもできました。特ちょうの一つ目は「青ひび」で

す。二種類の薬をぬることにより、かま出しの時にひびが入り、もようになるそうです。焼き物全体にひびが入っていて、とてもきれいです。二つ目は「ふたえ焼き」です。ふたつの器を重ね合わせることで、入れたお湯が冷めにくく、熱いお湯を入れて手に持っても熱くなりません。使う人の気持ちを考えて作られています。

三つ目は「走り駒」です。筆を使って馬の絵を一気にかき上げるそうです。手がぎなので同じ馬の絵は一つもないそうです。とてもかっこいいです。

だからぼくは、このすばらしい大堀相馬焼が、日本だけでなく世界にも広がって大人気になってほしいと思います。大堀相馬焼は昔から続いている伝統工芸。このまま後をつぐ人がいなければ終わってしまします。そんなことは、絶対にあってはけません。後をつぐ人を増やすためにも、もっととたくさんの人に大堀相馬焼のすばらしさを知ってもらい、世界中に広まってほしい。これがぼくの願いです。もし、ぼくの分身がいたら大堀相馬焼の職人になって伝統を守るために作り続けた気持ちでいっぱいです。

私の夢

六年 瀧 美優



私の夢は、プロのフラダンサーになることです。そのために留学する事です。私がそう決めたのは夏休みに行ったハワイ旅行で本場のフラダンスのすばらしさを知ったからです。私は、小学校一年生の時からフラダンスを始めました。それで、いつか本場のフラダンスを見たいのと、ずっと思っていました。その時、東日本大震災、さらに原発事故による避難生活になってしまいました。知らない土地での生活や学校になれるのに、毎日必死でした。何をすればよいのか分からない日もありました。ハワイのこともあきらめていました。

こへ行けば、フラダンスの歴史やフラダンサーの人達の思いなど、いろいろ分かるのではないかと思います。会場へ入りショーが始まりました。総勢百名のキャストの人達が六つの島からなる、ハワイ・トンガ・ニュージーランド・サモア・タヒチ・フィジーのそれぞれの文化を踊りて表現していました。私は、あつという間にその世界に引き込まれました。力強い男性の踊りは、力強さの中にも優しさを感じました。特に、女性の踊りには本当にビックリしました。指先がとてもしなやかに動き、表情も笑顔をやさずしなやかに踊ったり激しく踊ったり、とてもすばらしかったです。私もこんなふうになりたい、たくさんの人達にフラダンスのすばらしさを伝えたい、踊りで気持ちを表現したいと思いました。

ハワイでフラダンスを学ぶためには、まず本場の英語を学ぶために留学することだと思いました。学校では、オーストラリアからのALTの先生と外国語を学習しています。ハワイでは、それを生かして、片言の英語と身振り手振りで何とか会話や買い物をする事ができましたが、やっぱりきちんと会話がしたいと強く感じました。それに、現地の習慣や考え方などもっともっと知りたいたいと思いました。それには、これか

らさらに英語を勉強しなければいけないと改めて思いました。そして必ず留学の夢を実現したいです。昨年までは、歌手になりたいという夢を持っていました。それは、学校に外国のシンガーの人達がゴスペルを歌いに来てくれて、初めてアカペラで生歌を聞き、その迫力にビックリしたからです。力強くそしてかつこ良く歌う人達にひかれ、私の体は自然に動きだしリズムに乗っていました。一瞬でそんな気持ちにさせてしまうゴスペルを歌う人達を私は、とてもすてきだと思いました。私もそんな歌手になって、たくさんの人達を笑顔にしたいと考えました。また、デザイナーになる事も私の夢の一つでした。私は、小さいころから服にとっても興味があり、作ることもそうですがデザインすることもとっても好きでした。なぜならたくさん絵を描き一つの服が色の合わせ具合でいろいろな雰囲気になる事がとってもみりよかったです。こうして振り返ってみると、私は浪江小学校に来てくれた人達からたくさん事を学び夢をいただきました。たくさんさんの人達を笑顔にするすばらしい歌や外国の人との交流。新聞記者の方の真実をたくさんの人達に伝えたいという熱い思い。そして浪江町に古くから続く伝統芸能を伝え続けたいという願い。その思いを

実現しようがんばる人達と交流できてとても幸せでした。また、なみえ焼そば太田の方々が焼そばを通して、たくさんの人達に浪江町を知ってもらい、食べた人達の心を温かくし、そこに笑顔が生まれ、町を忘れてほしくないとがんばっている活動に、感動しました。私はたくさんさんの人達に支えられ、元気をもらい夢や希望、そしてこれから進むべき道への光をいただいているんだなあと心から思いました。

私は今、郡山市に避難しています。いろいろな人との出会いがあり、たくさんさんの事を学ぶ貴重な経験をしています。浪江にいればできなかった事や行けなかったかもしれない場所などをたくさん知ることができました。この経験から夢が大きくなりました。この経験から夢が大きくなりました。悩んでつらい日を送った時もありましたが、今はたくさんさんの人達の思いや願いを知ることができました。それをむだにはしたくはありません。自分が学んだことをしっかりと考えて、夢に向かってがんばろうと思えました。今、私はそんな人達のためにもたくさんさんの事に挑戦し、私ができる精一杯の事ががんばって行こうと思っています。そして、今度は私がみんなに夢を与える人達の一員になりたいです。